

## ✦ ご挨拶

日中の暑さはまだまだながら、朝夕は随分過ごしやすくなりました。これからひと雨ごとに季節が移り、秋の色が濃くなっていきますね。皆様いかがお過ごしでしょうか？気候不順の折から、くれぐれもご自愛くださいますようお願い申し上げます。

## ✦ 自然の摂理・・・

とある神社の奥深く、訪れる人も少ないその場所に彼らはいました。山中から湧き出た天然水が、「手水」として流れ落ちるキレイな池に・・・。

なんと、「サンショウウオ」です！小学生の時に図鑑で見た写真と同じだ！体長約10cmの黒い「サンショウウオ」に時を忘れ、しばらく興奮しておりました。

木立が生い茂り、木洩れ日がキラキラ・・・とても良い気が流れています。生活排水や汚染された水など入ってこない、ひっそりと静まり返った「聖域」が守っているたくさんの生命に、この上もない感動を覚えました。夏の終わりに、偶然見つけた彼らを眺めながら、「自然環境を守ることこそ、生命を守る基礎である」と再認識した一日でした。

話は変わりますが、歯科においては現在、歯科医師会が中心となり、全国的に小児の「フッ素塗布」を推奨しています。そして、健診の際「虫歯予防」を目的として、フッ素塗布も同時に行う自治体が増えてきました。

元々「フッ素」は、人体の構成成分には全く含まれていない元素です。声高に言われている「虫歯予防という利益」に隠れていますが、薬物であることを十分に理解すべきだと思います。というのも、フッ素の副作用として「骨硬化症」が挙げられ、その他にもダウン症やガンの発症との関係について述べた文献もあるからです。

確かに、フッ素塗布をされた歯牙は硬さを増すことで、虫歯のリスクを減らす効果があります。一方で歯の硬さを増強した分、咬んだ際の刺激（咬合力）が増して、歯を支えている歯周組織（歯ぐき・骨・象牙質・セメント質・歯根膜）

に影響が出ると思われ、特に歯の「食いしばり」や「歯ぎしり」をする小児に、その危険性が増すことが懸念されます。

また「フッ素塗布」を繰り返すことで、歯を支える骨の硬化が進み、骨の中の神経や血管が細くなり、骨の活性化が低下する恐れも十分に考えられます。すなわち骨の中の血流が滞って、栄養の供給不足や細菌に対する抵抗力が低下してしまう可能性があります。体力が十分備わっていない子供に、交通事故に備えて重い鎧を着させればどうなるか、お解りいただけるとと思います。

私は20年以上に亘り小児の歯科検診を行ってきました。昔は虫歯だらけの子供は珍しくありませんでしたが、最近はお母様方の管理で、虫歯に罹患している子供は少なくなってきています。虫歯になっていない歯に対し「フッ素塗布」を予防的に行う必要は無いと、私は思います。虫歯が多発している子供に対しては、ご両親がフッ素のリスクを認識した上で、塗布されるかどうかを判断されるべきものであろうと考えています。

フッ素であれ、ワクチンであれ、常に薬害の可能性を覚悟すべきです。利益と不利益を総合的に判断し、自分自身で納得する答えを出してください。大勢を占めるから安心とはいかない時代です。「無関心」は恐ろしいことなのです。

「自然に沿った生き方」とは？・・・「必要以上に手を加えないこと」だと私は思っています。



左：永平寺山門 修行僧が入門する時と、厳しい修行を終え去る時にのみ、通ることを許される山門。参拝客は横切ることのみ可。



右：永平寺境内に咲いた可憐な「蓮」（ハス）の花。花言葉は「清純な心・信仰・沈着」など。